

one

14号
2003年・春号

「もはや二人ではなく一体 (one) である」 マタイ19:6

Information

恒例の結婚感謝ミサがあります！

日時：2003年5月11日(日)15:00~
場所：聖イグナチオ教会 主聖堂

恒例の幼児洗礼式があります！

日時：2003年5月17日(土)10:00~11:30
受付：9:00~

場所：聖イグナチオ教会 主聖堂
問合せ先：教会事務所 TEL03-3263-4584

事前に申し込みが必要です！

ご意見・ご感想は one@ignatius.gr.jp



便利さと家庭

私たち夫婦は職場結婚した。ある日、帰宅するなり夫はケータイをかけ始め、そのまま着替えに自室に入った。電話を切ったあと、「朋子さんがよろしくって」と夫が言った。朋子は私の元同僚で親友だ。家の電話を使っていれば、私にも代わってと言えたのに...

またある日、夫が風呂に入っているとき、机上のケータイが震えた。何気なく見ると、職場で夫と同じ部署の女性の名前。仕事以外でも意気投合しているの？複雑な気持ち...でも、その気持ちは伝えないでおこう。彼を信頼したいから。

ケータイやメールが普及し、夫婦間の連絡も含めて、大変便利になったことは間違いない。しかし長所と同じくらい短所があるように思うのは私だけだろうか。夫を信頼しているものの、一抹の寂しさがないわけではない。ケータイをのぞきたいと思うこともある。同じ気持ちは、夫からも感じる。私のケータイの音に敏感だったり、ケータイ中の私の声の調子や話し方を気にしている。

広島義母は、「古い考え方もかもしれないけど、家の中が寂しくなることがあるから」とケータイとメールを使わない。従来の電話で、義父母と私達が受話器を替わりばんこに話すこともある。また、手紙がFAXで、直筆の温かい文字を送ってくれることもある。

ほんの数年前までケータイやメールなしで生活できた。今日一日だけは、ケータイもメールも使わず生活してみよう。待ち合わせた駅で夫と会えなかったら、走り回って探そう。電話が鳴ったら、テレビの音を少し小さくしてもらおう。友達に手紙でも書いてみよう。(AN)

覚えていますか この言葉

山本襄治

司祭からのメッセージ

その言葉は、これ、「主キリストによって」です。結婚式の時、司式司祭が唱える祈りを結ぶ言葉です。お二人が結婚の誓約を交わす前、司祭が唱えるあの祈りです。祈りの言葉は忘れても、意味するところは、「二人を一つに」、「未永く幸せに」主キリストによって、アーメン(そうであるように)です。お二人の結婚の誓約は、キリストの、見守り、確認する眼差しのもとに結ばれ、キリストによって祝福されたのです。そこにキリストがおられたのです。その日から今日までキリストはいつもあなた方とともにおられ、お二人とご家族を見守り続けて来られました。今日は、その「そばにいて、いつも見守っておられるキリスト」とさらに親しくすることを考えてみましょう。

昨年、家庭と結婚についての会議があって台北に行きました。そこで言われていたこと

は、「夫婦で、家族で聖書を読もう」ということでした。いきなり「聖書を」と言われても、どこを、どう読むのかと言うことになり、わたしは、まず4つの福音書のどれかを、お二人で読むことをお勧めします。一番先にあるからマタイか、一番短いからマルコか、やさしい感じのルカか、深い印象のヨハネかは、御自分たちで決めてください。それを、欲張らないで、少しずつ、1ページ位をめどに毎日、二人で！そんな無理、不可能！何も二人と一緒にとは言っていない。そうできればよいのですが、一緒になくても、二人が同じ箇所を読んで、そこで話題になっているキリストが、今日も一緒にいてくださる、だから、わたしたちも、二人でキリストと一緒にいるようにしよう。ということにしたいのです。



結婚再考

結婚セミナー20周年を機に

1983年9月にスタートした結婚セミナーは今年20周年を迎え、セミナーを修了してイグナチオ教会（またはクルトゥル・ハイム）で結婚式を挙げたカップルは実に2056組を数えました（2002年12月末）。節目の今、もう一度原点に戻って結婚ってなんだろう？を考えてみませんか。

セミナーは乗り換え駅

「恋愛はface to face、結婚はside by side」最近知ったこの言葉は実在的を射ていると思います。なんとなく毎日過ごしている私たちにとって、セミナーはそれまでの人生？を振り返り、これからの生活を設計する貴重な体験でした。半年間20回と聞いた時は、絶対無理だ！と思ったけれど。

私たちは、1994年7月に旧聖堂で挙式しましたが、教会との出会いはそれより5年ほど前でした。たまたま仕事で、当時のルイス・カンガス主任司祭の笑顔とお人柄に触れて、ぜひこの方に結婚式をお願いしたいと思ったのです。

この原稿を頼まれて、改めて結婚セミナーのノート、プリントなどを読み返してみました。すると、どうでしょう！自分や相手の性格のこと、セミナー仲間の名言（迷言？）や、家庭の平和から世界の平和を願う気持ちまで見事にフラッシュ・バックしたのです。

セミナーは、結婚式をするための通過駅だったのでしょうか？いえいえface to face からside by sideへの最初の乗換え駅だったと今になって思います。どうぞ皆さんもこの機会に当時のノートをお二人で読み返してはいかがでしょうか？

1994年修了 山本浩・真美

心に残る結婚の言葉 ~セミナーノートより

幸福になるのは 私の権利と同時に私自身への義務

誰かを愛するよりも まず自分を愛することから始めなさい
ありのままの自分を愛していなければ 誰を愛することができますか

結婚によって これから家庭の責任を取る社会人になる

結婚には 独立と自由がある「結婚は人生の墓場」ではない
結婚して益々独立を自由を 依存 束縛とは正反対です

結婚したのだからと“take for granted”(～して当たり前と思う)ことは恐ろしいこと

相手を常に選び直そう

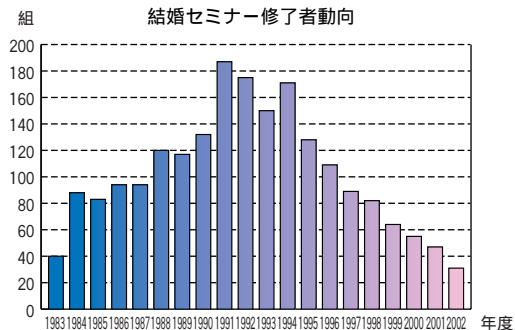
相手を常に選び直そう

夫との出会いは1983年親戚の紹介によるお見合いでした。「教会で式を挙げたい」という私のたったの願いを聞き入れてもらい、当時大阪に住んでいた夫にとっては、3ヵ月間、毎週日曜日に東京に通うという苦難の日々が始まったわけです。でも、知り合って間もない私たちにとって、セミナーでの語り合いは、お互いの結婚に対する考えを理解し、深め合う大変良い機会となったと思っています。優しい微笑みをたたえたネメシュ神父様と、ヘルパーのご夫婦方に囲まれ、穏やかな雰囲気の中で、率直な気持ちになれたことを良く覚えています。

そんな中で、心の中に一貫して強く残り、この20年間私たちを支え続けてきた教えは、「相手を常に選び直す」という事です。せっかく一生の伴侶として選んだ人なのだから、相手にどんなことがおころうと、切り捨てるのではなく、それを又新たな一面として受け入れていくという事です。この言葉は、お互いに相手を大切な存在として意識するための心の支えとなりましたし、実際に大抵のことは乗り越えられたように思います。

現在、高3、高1、中1の女の子に小4の男の子と、4人の子供に恵まれ、子育ての真っ最中にある私たちですが、出発点をこの結婚セミナーにもてたことをとても幸せに思います。お世話になった神父様、ヘルパーのご夫婦の皆様には、心から感謝しております。

1983年修了 山本明男・敦子



「ゆるしてください」と思う気持ち 難しいが是非そう言える二人になってください

相手を罪に定めない

家庭に正義を持ち込みすぎると 「家庭」は「社会」になってしまいます

世の中は競争社会であっても 家庭には競争の気配さえ あってはいけない
家庭はお互いに ゆるしあって くつろげて 唯一甘えられるところ お互い甘えることが大切です

常識って何？ 常識の中に 差別や偏見が 知らないうちにはいつていることもあるよ

舅姑問題は 善悪でないからこそ 夫(妻)のサポートが必要

驚きは 大人になるにつれて 忘れてしまう びっくりする 何故という気持ちが 大切です

もっとシンプルに考えると 解決することが多いよ そしたら強くなるよ To be simple is to be strong.

心のシンプルライフ

「もっとシンプルに考えたり感じたりしたら、楽になるんじゃない？子どもはシンプルに反応するから強いでしょ？」昨日のセミナーの指導司祭の言葉を、食器を洗いながら思い出した。子どもの頃が甦る。きれいだと思った雑草の花で萎びたような花束を作り、得意げに食卓に飾ったこと。叱られて「ご免なさい」と謝り、「分かったら、いいのよ」と言われれば心の底から安心したこと。誉められれば、ただ嬉しかったこと。自分の感じたままを表し、人の言葉をそのまま受け入れていた。

ところが年をとるにつれて人との交わりが広がると、常識にとらわれ、周りの状況を過剰に読み、自分の感性を疑い、利害関係を考え、言葉の裏を推し量るようになる。そして、疲れ切る。子どものことを必要以上にあれこれ心配し、姑の言葉に引っかけ、夫と話がかみ合わない。

どうして昔はあんなにシンプルで強かったのだろうか考えた。子どもの頃は親が自分をまるごと愛してくれているという絶対とも言える信頼感、安心感のもとに、自分があるがままに肯定していたからだろう。自分も、人も、人の言葉もそのまま受け入れる、これがシンプルになれる原点かもしれない。「無条件であるがままに相手を受け入れる」...前に手伝ったセミナーの言葉が交差する。

食事の後片付けも終わり、犬のアンジュを散歩に連れ出した。雨の後の緩んだ空気を吸いこんで、見知らぬ人と目が合った瞬間にかすかに微笑を交わした。

(ヘルパーYS)

無視 無関心は 一番恐ろしいこと 愛の対極

一番聞きたい「あなたのことが好きだ」ということは 伝えないと伝わらない

共に生活する為に 大切なのは 知恵です

知恵～恵みを知ること

2002年11月24日、日曜日、曇りのち晴れ。私たちの結婚式当日は、どんよりとした厚い雲に覆われていた。ウキウキと弾む気持ちと、心地よい緊張感の中で、デ・スーザ神父様のお言葉に耳を傾けた。

ともすると、自分勝手になりやすい私たちの課題は、共に生活する中で、お互いを信頼し、思いやること。その為に大切なのは知恵である。「知恵」とは、勉強等で得られる知識ではなく、その字のごとく、「恵みを」「知る(さとる)」ことである。知恵は私たちの生涯を通して、人や社会との関わりにより得られる、何物にもかえがたい、大切な力となる。私たちは人と関わる時、時には静かに見守り、時には積極的に話し合い、時には一歩下がってただ沈黙することが必要なのもある。森の木も、木と木の間に全くスペースが無ければ枯れてしまうように、距離をおくことが、相手の成長を助けることもあるのだ。互いに、尊敬と信頼をもって、節度ある距離を保ちつつ、積極的に関わる、その余裕こそが知恵であり、私たちの大いなる力となる。

挙式後、参列者の中に、4年近くも逢わなかった友人の姿を見つけた。長い時間と距離を埋めて、私と関わろうとして来てくれた友人...。神父様のお言葉を、心の中できみしめながら、少し潤んだ私の頬の奥には、爽やかな秋晴れが広がっていた。

2002年修了 武田健一・聡美



尊敬される人よりも尊敬する人 尊敬する心をもつ人の方が むしろより大きな人間

理解は 尊敬と謙遜の合併です

相手の好き嫌いについて 専門家になりなさい

彼の 彼女の ナンバー1になりなさい

信じるとは 心の営み 証明とは違う

夫?まだ良くわからない でも信頼はしている(ヘルパー)

夫婦には 感謝 尊敬 ユーモア の3つが必要

ありふれた幸せ 「ありがとう」の一言

感謝は理論ではない 心構え

子どもは 授かりもの つくるものではありません

子どもほどの独裁者はいない でもこの独裁者は喜ぶべきもの

私たちにとっては 自分子どもたちは皆 天才なの(ヘルパー)

ときには 「よろしくお願いします」と 祈ることは大切なことです

夫婦になっても 寂しくもなり 心が満たされないときもあります そういう時は祈りなさい

幸せとは 仕合わせで 相手に仕えることです “What can I do for you ? ”



恋人は face to face / 夫婦はside by side

恋愛感情のみで結ばれる夫婦

北欧では離婚率が極めて高い、と以前聞いたことがある。その原因の一つに、社会福祉制度が極めて充実しているため、夫婦が離婚してもその後あまり苦勞せずに暮らしていけるという事実があるらしい。このような一見恵まれた環境のもと、夫婦共に生活を築いているという実感が薄く、「配偶者への愛情が失せた」「他に好きな人ができた」との理由で簡単に離婚してしまうケースが多い。別の言い方をすれば、北欧では恋愛感情のみで結ばれている夫婦がかなりの数に上ると言えるのかもしれない。

ボランティア精神に基づく「伴侶」

この話から改めて気づくのは、恋愛感情が発展して夫婦として結ばれても、結婚は恋愛感情だけでは成り立たないという事実である。

恋人たちは二人で向き合い (face to face)、恋愛そのものに執着している愛着 (あいじゃく) の状態にあると言える。これに対して夫婦はそこからさらなる次元へと、共に (side by side) 進む存在だろう。日々の実生活を築くために協力し、問題や悩みが発生したときには解決に向けて一緒に取り組み、障害があればそれを助け合って乗り越えていく。伴侶 すなわち行動や考えをともにする人 となる。そのためには、本来の意味でのボランティア精神に基づいて、夫も妻も自ら行動を起こし、互いに支え合うことが必要となる。

進化する愛情

恋人同士と同様に、伴侶としての夫婦を結ぶのは愛だ。しかしそれは「恋」という言葉で表現される、相手への執着心のある愛情ではなく、相手のことを真摯に考える、もっと深い愛情となるのではないだろうか。先入観を持って相手の言動を分析し批評することなく、美点や欠点、得手不得手をすべてそのままの形で受け入れる愛情。相手になんらかの負担や苦痛があれば、それを取り除こうとする愛情。

友人の結婚式で、ある年輩者から次のような言葉が新郎新婦に贈られた。「夫婦は結婚式を挙げたから夫婦になるのではなく、一生かかって夫婦になるのです。」この言葉をかみしめながら、夫婦としての愛を、これから二人でこつこつと育てて行きたい。



「救い」ってどういうことなのでしょう？

Q

キリスト教では「救い」という言葉をよく耳にしますが、「救い」ってどういうことなのでしょう？本を読んだり、人と話したり、何かのきっかけで気持ちが楽になり、「救われた」と思い、力がまた湧いてくるあの感じと、キリスト教で言う「救い」は関係があるのでしょうか？「救い」について、わかりやすく説明してください。

A



栗本昭夫

「救い」とは、「あるべき状態になる」と言うことです。「健康、あるいは健全になる」ともいえるでしょう。「救い」と「健康(全)」は同義です。病気や怪我が治り、健康になると「救われた」と言うでしょう。また、辛い気持ちが楽になると、「救われた」と言うでしょう。多くの借金を帳消しにしてもらい、健全な経済状態になると、やはり「救われた、助かった」と言うでしょう。どの場合も「本来あるべき状態」になった時に「救われた」と言うのです。

では、人間の「本来あるべき状態」とは、キリスト教的に考えるとどういう状態でしょうか？それは人間が創

られた時の状態、即ち、誤解を恐れずに一言で言えば、「楽園」にいたアダムとイヴの状態と言ってもいいでしょう。何の心配もなく、満ち足りて、永遠の命を授かっている状態です。

しかし、アダムとイヴが犯した罪によって楽園を追われて以来、私たちはあるべき状態に戻れないままです。この世の命は有限であり、人生には苦しみ、悲しみが珍しくありません。それをあるべき状態にするために、神の側からキリストを遣わして下さり、キリストが十字架にかけられることによって、全人類の罪を償ってくださった。その結果、人類は「救われた」- 即ち永遠の命をいただくことができるようになった。これが、キリスト教における「救い」です。「救い」はキリスト教の根幹をなすものですが、あえて簡単に説明すれば以上のようなと思います。

CD



イスラエル『天国から雷』
(原題：E Ala E)
ラッツバック・レコード(株)
LEIR-0018
2,718円(税別)

そよ風のような音楽

英語にsoothingという言葉がある。心安まる、和らげる、静めるという意味の形容詞だが、ハワイのミュージシャン、イスラエル(Israel Kamakawiwo'ole)の歌声にはその言葉があてはまる。

イズの愛称で親しまれる彼の代表作に『天国から雷』というアルバムがある。日本で活躍してきたハワイ出身の力士、曙、武蔵丸、小錦を讃えるユーモラスな曲をはじめ、島々の歴史や文化、自然などの歌が、体重300キロ超という身体から発せられる軽やかな声で歌われる。惜しくも1997年に38歳で他界したイズの葬儀は州葬として行われ2万人が参列した

が、作品を聴くと彼がハワイの人々に愛された理由が分かる。

暖かい日に開けた窓からそよ風が流れる。このアルバムはまさしくそうした優しい風のような。イズの声の心地よさから、CDをかけると我が家では幼い子供たちはおとなしくなり、親も心が落ちつく。家族が皆、お互いに優しくなる音楽。

ちなみに映画『小説家を見つけたら』などで使われた『虹の彼方/この素晴らしき世界』の見事なメドレーが収められているアルバム『フェイスング・フューチャー』も必聴。(bemsha)

Books



文・そうま こうへい
絵・かとう あやこ
ISBN4-577-02523-X
ブレーベル館 500円(税別)

癒しの絵本

「おでかけ おでかけ」

おでかけまでのひとコマひとコマが、フェルト素材タッチで描かれています。2歳になるこどもに読み聞かせたところ、「じぶんでできるよ!」「じぶんではけるよ!」「ウルトラマンもっていき!」「あそびにいこうよ!」と、とうとうおでかけをせがまれてしまいました。親子の会話が自然に弾みます。

「みんなのかお」

小学校の黒板といえば、休み時間に書いた落書きを思い出します。ページをめくるとチョークの粉が落ちてきそう!落書き好きな、こどもから大人までが楽しく読めます。(SJ)



文・そうま こうへい
絵・たぶち あい
ISBN4-87110-137-1
絵本館 850円(税別)

夫と妻のビーフ系シチュウ

夫婦と娘の3人家族

夫（父親）は台所のあとかたづけをよくするし、またひとりで時々シチュウもつくる

材料

- *牛（シチュウ用ぶつ切りか、タン丸ごと、またはオックステールのどれか） 500g～1kg、
- *野菜（にんにく、たまねぎ、ニンジン、セロリ、
その他冷蔵庫にあるしなびかけたピーマン、長ネギ、パセリなど
なんでも整理がてら入れてもよい）両手に2杯くらいかな？
- *赤ワイン半本～1本、
- *固形スープの素（あれば）

作り方

油かバターでにんにくをゆっくりと炒め、そこに塩コショウした肉を入れ、まわりをしっかりと焼いたらどけておく。
適当に細かく切ったたまねぎその他の野菜を炒め、何となく茶色になったら肉とあわせる。
固形スープ1、2個と月桂樹の葉、赤ワインひたひたよりちょっと多めに加え、蓋をしてとろ火で2時間ほど煮て火を止める。耐熱の鍋なら蓋をして天火に入れてもよい。この時トマトの水煮1缶を入れてもよいし、ワインが足りなければ、水を加えてもよい。その日はそのまましておく。（こうすると味が染みて美味しい）
次の日食べる前に温めなおす。温める時に妻がバターと粉を練ったものを入れトロミをつけ、味見をして、「美味しいっ」と叫ぶ。（妻の出番はこれだけだが、トロミをつけなくても十分美味しい）
もし残ったら、カレー粉を入れると美味しいカレーになる。

普段作らない人が作るということだけでほめてもらえるシチュウです。（HS）



結婚感謝ミサに行こう！ 今年は5月11日(日)です。

「ねえ、結婚感謝ミサに行ってみない？」と知人から誘いを受けた。あまり教会に馴染みのない私達は何をするのか、どのような気持ちで臨んだらよいのかも分からなかったが、「案ずるより生むが易し」の精神で行くことにした。教会へ入ると、何とも言えない不思議な温かい空気を感じ、柔らかな布で包まれているような優しい気持ちになった。出かける前の一抹の不安は一瞬のうちに消え去っていた！

感謝ミサは、結婚式をもう一度という内容だった。結婚式当日は、緊張・興奮で落ち着いて聞く余裕のなかった神父様の言葉が、心に響き、結婚式の意味を改めて考えさせられた。多くの人から祝福された結婚式を今一度思い出し、私達はそれに応える責任があるのだなと思った。結婚式のときの透明でとても素直な気持ちが蘇り、自分でも好きな自分になれた。教会は、いつも変わらずに、どんな状態でも受け入れてくれる母のような存在なのかもしれない。ただ自分から離れていただけなんだと思った。

結婚式をもう一度！ 今年も感謝ミサに行きます！

（AY）

one編集部では、一方通行のコミュニケーションにならないように心がけ、読者の声を特集の企画や誌面作りに活かしています。今後もアンケートへのご協力をよろしくお願いします。スタッフ一同、楽しみにしております。

－ 編集後記 －

このone14号が皆さんのお手元に届く頃には、桜前線は北東北、北海道辺りまで達しているのでしょうか。桜はもちろん、れんげよう、水仙、チューリップ、雪柳など、春は道端や広場が花の色に溢れ、毎年のように心が弾んでしまいます。

今年に限って言えば、ウキウキしてばかりもいられない毎日が続いています。悲しいことに、私たちの目の前で悲劇が起きているのだから。この数ヶ月間、世界中の人たちが多くを考え、悩み、話し合い、行動を起こして、より良い方向へと道を作ってきたはずなのに、現実はずいぶん違ってきます。望んでいるものは「平和」であるはずなのに、その過程が平和的ではないなんて、起こしてはいけないことだったのです。政治家ではない私たちの多くにできることは限られています。実際にはなかなかアクションを起こせないこともあります。それでも、いつでも誰にでもできること、それは祈ること。「なあんだ」というようなことではありますが、そこから始めなければ何も起こらないのですから…。

今後世の中がどう変わっていきけるかは定かではありませんが、やはり誰もがどこにて平和を享受できるようにしていきたいものですね。さしあたっては、次号の編集は平和の中で行えるように。そして、来年の春は思いきり心を踊らせることができるように。

（福山順子）

編集参加者（50音順）

新井直子
内田京子
神谷智子
城間正人
鈴木肇
鈴木庸子
武田伸子
玉木健太郎
福富達夫
福山順子
森本亜希子

発行：2003年4月発行
聖イグナチオ教会 one 編集部
責任者：福富達夫・森本亜希子
編集長：玉木健太郎
〒102-0083
東京都千代田区麹町6-5
Tel: 03-3263-4584
Fax: 03-3263-4585
<http://www.ignatius.gr.jp>
one@ignatius.gr.jp

印刷：三鈴印刷株式会社
東京都千代田区神田神保町2-32-1